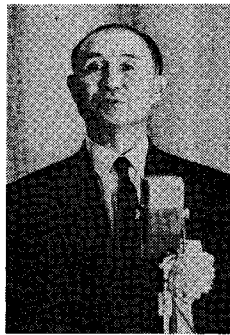




## 第53回通常総会

第53回通常総会は、第45回通常総会（昭和34年6月13日）以来8年ぶりに広島市紙屋町1-3-8 広島銀行本店会議室において、昭和42年5月26日14.00時より開催された。目抜き通りに面した広銀ビルは交通の便もよく、定刻前から多くの会員が続々と会場へつめかけ、報道関係者も数多く出入りしていた。定刻14.00時に篠原会長が議長席につき羽田専務理事の司会により、小林元検大会実行委員長を紹介、小林委員長より歓迎の言葉が述べられ、つづいて篠原議長が立ち、中国四国支部の協力を謝し、羽田専務理事より出席会員1376名（委任状を含む）をもって定足数を越えたので総会が成立する旨報告があり、ここに第53回通常総会を宣し、議事に入り、つぎの議案が承認され、別掲の報告があった。



小林大会実行委員長

### 議案 1. 昭和41年度事業報告

(自昭和41年4月1日  
至昭和42年3月31日)

成岡理事より説明があり了承された。

#### I. 理事・監事の選挙（昭和41年5月9日）

	退任	留任	新任
会長	岡部 三郎君		篠原 武司君
副会長	大石 勇君 山内 一郎君	水野 高明君	酒井 忠明君 畑谷 正実君 最上 武雄君
専務理事		羽田 巖君	
理事	伊藤 直行君 板倉 忠三君 宇野 周三君 春日屋伸昌君 斎藤 義治君 篠原登美雄君 鏡 靖司君 富所 強哉君 松尾新一郎君 村上 正君 八木 健二君	青木 康夫君 内林 達一君 久保慶三郎君 近藤市三郎君 佐藤 友光君 多谷 虎男君 友田 清三君 成岡 昌夫君 藤田 博愛君 町田 利武君 耳野 慎君	粟田 龜三君 飯吉 精一君 神田九思男君 米谷 栄二君 堺 毅君 広瀬 可一君 村上 正君 森本 茂男君 横戸 実君 横道 英雄君 吉田 登君

安宅 勝君 森垣 常夫君 渡辺 隆二君  
渡部 時也君

監事 武内 修君 井関 正雄君 橋 好茂君

#### II. 役員登記

理事の変更登記 昭和41年7月20日

#### III. 通常総会および役員会

(1) 通常総会（41.5.27, 札幌市日本生命ホール）  
出席者：1277名（うち委任状1100名を含む）  
会員数 22340名  
定足数 1117名

##### 議案：

- |                        |    |
|------------------------|----|
| (1) 昭和40年度事業報告         | 承認 |
| (2) 昭和40年度決算報告並びに残余金処分 | 承認 |
| (3) 名誉会員の推挙            | 承認 |
| 大島 太郎君                 |    |
| 田中 吉郎君                 |    |
| 成瀬 勝武君                 |    |

##### 報告：

##### 評議員会の決議事項

- (1) 第51回通常総会提出議案
- |                     |    |
|---------------------|----|
| 40.5.12 定例評議員会      | 可決 |
| (2) 土木学会規則の一部改正     |    |
| 40.8.2 書面により賛否      | 可決 |
| (3) 土木学会規則の一部改正     |    |
| 40.12.18 臨時評議員会     | 可決 |
| (4) 役員候補者選考内規の一部改正  |    |
| 40.12.18 臨時評議員会     | 可決 |
| (5) 昭和41年度事業計画および予算 |    |
| 41.3.30 定例評議員会      | 可決 |

##### 表彰：

- (1) 土木学会賞の授与
- |       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 功績賞   | 1. 内海 清温君<br>1. 鈴木 雅次君              |
| 技術賞   | 1. 日本国有鉄道殿<br>1. 関西電力株式会社殿          |
| 論文賞   | 1. 林 泰造君<br>1. 久保 浩一君               |
| 論文奨励賞 | 1. 石原 研而君<br>1. 中村 英夫君<br>1. 土岐 憲三君 |
| 吉田賞   | 1. 赤塚 雄三君                           |
- (2) 吉田研究奨励金の授与
- |           |
|-----------|
| 1. 加藤 清志君 |
| 1. 石川 達夫君 |

1. 広瀬 卓蔵 君
1. 森口 拓 君
1. 柳田 真司 君
- 小池 晋 君
- 音羽 立男 君
1. 田辺 忠顕 君
1. 加藤 茂美 君
- 矢島 哲司 君
1. 植田 紳治 君
- 渡辺 正法 君
1. 岩崎 訓明 君

新任理事および監事の紹介

前掲省略

(2) 評議員会

- 1) 定例 (41.5.12)
  - (1) 昭和 41 年度新役員選挙の結果報告 諒承  
前掲省略
  - (2) 第 52 回通常総会提出議案 可決  
前掲省略
  - (3) 基金繰入について 可決
  - (4) 田中賞の設置について 承認
- 2) 定例 (42.3.29)
  - (1) 昭和 42 年度事業計画 可決  
別途掲載
  - (2) 昭和 42 年度予算 可決  
別途掲載

(3) 理事会

定例：昭和 41 年 4 月から昭和 42 年 3 月まで 12 回

- (1) 協議事項 66 事項
- (2) 報告事項 52 事項

(4) 支部幹事会議 (41.8.20)

- 1) 特別会員の増強対策について
- 2) 通常総会および年次学術講演会の実施担当支部について

IV. 各種委員会

(1) 表彰委員会

委員長 篠原 武司 君 副委員長 最上 武雄 君  
功績賞主査 岡本東一郎 君 技術賞主査 渡辺 隆二 君  
外に委員および幹事 25 名

- 1) 委員会 3 回, 主査幹事会 2 回, 2) 功績賞および技術賞の選考。

(2) 論文賞選考委員会

委員長 本間 仁 君 副委員長 村上 永一 君  
第 1 部門主査 久保慶三郎 君 第 2 部門主査 嶋 祐之 君  
第 3 部門主査 福岡 正巳 君 第 4 部門主査 米谷 栄二 君  
外に委員および幹事 23 名

- 1) 委員会 3 回, 主査幹事会 2 回, 2) 論文賞および論文奨励賞の選考。

(3) 吉田賞選考委員会

委員長 岡部 三郎 君 副委員長 国分 正胤 君  
外に委員および幹事 22 名

- 1) 委員会 3 回, 幹事会 1 回, 研究奨励金小委員会 1 回
- 2) 吉田賞受賞者および吉田研究奨励金被授与者の選考

(4) 田中賞選考委員会

委員長 福田 武雄 君 副委員長 平井 敦 君  
外に委員および幹事 17 名

- 1) 委員会 4 回, 幹事会 2 回, 2) 田中賞 (論文・作品) の選考。

(5) 会誌編集委員会

委員長 増岡 康治 君  
外に委員および幹事 40 名

- 1) 委員会 5 回, 小委員会 8 回, 座談会 4 回, その他打合せ会 4 回, 幹事会 1 回, 2) 土木学会誌 51 巻 5 号～52 巻 4 号, 12 冊

登載内容：論説 10, 展望 13, 報告 23, 座談会 2, 解説 5, 講演 1, 資料 18, 寄書 8, 話のひろば 5, マンスリートピックス 11, ニュース 90, 講座 3, 特集記事 6, 豆知識 3, 学生欄 12, 書評 16, その他論文紹介, 文献抄録, 文献目録等

- 3) 年間発行総ページ数：2124 ページ (目次, 写真, 広告含む), 4) 年間発行総部数：257800 部。

(5-1) 書評小委員会

委員長 高橋 裕 君  
外に委員 4 名

- 1) 委員会 8 回, 2) 国内の土木系出版物の書評を行ない会誌に順次掲載。

(6) 論文集編集委員会

委員長 村上 永一 君 副委員長 都 淳一 君  
第 1 部会長 西村 俊夫 君 第 2 部会長 嶋 祐之 君  
第 3 部会長 都 淳一 君 第 4 部会長 池田 康平 君  
外に委員および幹事 45 名

- 1) 委員会 6 回, 部会長会 7 回, 2) 論文集 128 号～139 号—12 冊, 3) 年間発行総ページ数：641 ページ (うち英文要旨 96 ページ, 討議 4 ページ, 研究ノート 2 ページ), 4) 年間発行部数：59750 部。

(7) 学術講演連絡委員会

委員長 久保慶三郎 君  
外に委員および幹事 14 名

- 1) 委員会 6 回, 2) 第 21 回年次学術講演会 (41.5.28～29, 札幌市) 開催に協力, 3) 夏期講習会 (41.8.25～26, 東京都) 開催に協力, 4) 学会各種講演会, 講習会等に協力, 5) 関係団体との共催に協力, 6) 土木学会全国大会実施について審議。

(8) 海外連絡委員会

委員長 伊藤 剛 君  
外に委員および幹事 15 名

- 1) 委員会 5 回, 2) 英文年報 (Civil Engineering in Japan 1966) を編集し, 67 年版の出版について準備中, 3) わが国の土木技術の海外進出につき積極的に協力, 4) 外国土木技術者研修員 12 カ国 17 人のための集いを開催, わが国の土木技術の PR に努力。

(9) 出版企画委員会

委員長 春日屋伸昌 君 副委員長 堺 毅 君  
外に委員および幹事 22 名

- 1) 委員会 6 回, 幹事会 5 回, 2) 学会出版物および監修出版物の企画管理調整, 3) 41 年度の主要刊行物はつぎのとおり; 工事報告 黒部川第四発電所, 土質実験指導書 (改訂版), 人工軽量骨材コンクリート設計施工指針 (案), 新潟地震震害調査報告, Civil Engineering in Japan 1966, コンクリート・ライブラリー 15 号 (ディビダーク工法設計施工指針案), 土木技術者のための振動便覧, 土木技術者のための岩盤力学, トンネル工学シリーズ No. 3 (第 3 回トンネル工学シンポジウムテキスト), トンネル

工学シリーズ No. 4 (わが国シールド工法実施例第1集), 第13回海岸工学講演会講演集, Coastal Engineering in Japan Vol. 9, 水理実験指導書, 土木材料実験指導書(改訂版), プレバッド・コンクリート施工指針(案)。

(10) 文献調査委員会

委員長 松本 嘉司君  
外に委員および幹事 27名

1) 委員会12回, 2) 会誌51巻5号~52巻4号に文献抄録58件, 82ページ, 文献目録4092件67ページ登載, 3) 内外文献よりみた展望解説記事; 「土木工工程管理の手法」, 「河口湖案にともなう水理学検討」, 「プレートガーダーの極限強度解析」, 「軌道構造について」, 「温水取水にともなう密度流現象」, 以上の5編を会誌に登載。

(11) 土木図書館運営委員会

委員長 米元 卓介君  
外に委員および幹事 18名

1) 委員会9回, 打合せ2回, 2) 図書館備付図書の設定, 3) 資料類の収集, 4) フィルム・ライブラリーの充実, 5) 会誌に「図書館だより」を継続的に掲載し, 図書館活動をPR, 6) 土木図書館蔵書目録の刊行。

(12) 大学土木教育委員会

委員長 林 泰造君  
外に委員および幹事 31名

1) 委員会2回, 幹事会6回, 打合せ4回, 2) 大学土木教育に関する実情の調査研究, 3) 大学土木教育に関するアンケート(案)のとりまとめ, 4) 土木工学の長期研究計画(案)の検討, 5) 外国の大学教育および国内の大学におけるカリキュラム等の調査研究, 6) 日本土木史「土木教育史」執筆に協力。

(13) 高校土木教育研究委員会

委員長 箭内 寛治君  
外に委員および幹事 19名

1) 委員会2回, 幹事会2回, 分科会2回, 2) 水理実験指導書出版, 3) 高校土木教育白書(仮称), 測量実習指導書, 構造実験指導書の編集, 4) 土質・材料両実験指導書改訂版の出版, 5) 高校土木教育のあり方, 学生指導要領につき検討。

(14) 水理委員会

委員長 石原藤次郎君 副委員長 林 泰造君  
外に委員および幹事 47名

1) 委員会3回, 幹事会1回, 常任幹事会2回, 打合せ1回, 2) 第11回水理講演会(42.2.3~4, 東京都)を開催, 講演集を刊行, 3) 水工学に関する夏期研修会(41.8.1~13, 東京都)を開催, 講演集を刊行, 4) 水文学に関するシンポジウム(42.2.4, 東京都)を後援, 5) 第10回海岸工学国際会議(41.9, 東京都)に協力, 6) M. Abbott氏講演会(42.3.24, 東京都)を開催, 7) 水理学の長期研究計画の検討, 8) 水理学研究の現況を会誌(42年3月号)に発表, 9) 水理公式集改訂につき検討, 10) 国際水理学会議に協力。

(14-1) 水文学小委員会

委員長 井口 昌平君  
外に委員8名

1) 小委員会1回, 2) 水文学に関する調査研究, 3) 国際水文学10年計画に協力。

(14-2) 水理公式集改訂小委員会

委員長 横田 周平君

外に委員および幹事8名

1) 委員会5回, 2) 水理公式集の改訂(昭和43年を目標)の準備, 3) 改訂に必要なアンケートを実施。

(15) 海岸工学委員会

委員長 本間 仁君  
外に委員および幹事34名

1) 委員会2回, 2) 第13回海岸工学講演会(41.12.5~6, 仙台市)を開催, 講演集を刊行, 同時に見学会を実施, 3) Coastal Engineering in Japan Vol. 9を刊行, 同Vol. 10を編集, 4) 第10回海岸工学国際会議(41.9, 東京都)開催に協力, 5) 水工学に関する夏期研修会(41.8.1~13, 東京都)開催に協力。

(15-1) 論文編集小委員会

委員長 本間 仁君  
外に委員8名

1) 小委員会3回, 2) 第13回海岸工学講演会講演集およびCoastal Engineering in Japan Vol. 9, Vol. 10の編集。

(16) 衛生工学委員会

委員長 板倉 誠君  
外に委員および幹事20名

1) 委員会4回, 懇親会1回, 2) 第3回衛生工学研究討論会(41.11.22, 東京都)を開催, 講演集を刊行, 3) 衛生工学に関する調査研究を実施, 4) 衛生工学関係者懇親会(41.5.29, 札幌市)を開催, 5) 火力発電所の排水処理に関する研究小委員会(受託)に協力, 6) 国際水質汚濁会議に協力。

(16-1) 火力発電所の排水処理に関する研究小委員会(受託)

委員長 徳平 淳君  
外に委員4名

1) 火力発電所の排水処理に関する調査研究を実施。

(17) 耐震工学委員会

委員長 那須 信治君 副委員長 岡本 舜三君  
外に委員および幹事28名

1) 委員会11回, 2) 日本地震工学シンポジウム(1966)(41.10.24~26, 東京都)を4学会共催により開催し, Proceedingsを刊行, 同時に見学会を実施, 3) 地震工学トレーニングセンターに協力, 4) 国際地震工学会議に協力, 5) 国内, 外の耐震問題の調査研究, 連絡, 6) 日本学術会議地震工学研究連絡委員会に協力, 7) 軟弱地盤耐震設計研究委員会(受託)に協力, 8) 本州四国連絡橋技術調査委員会・耐震設計小委員会(受託)に協力, 9) 第9回地震工学研究発表会開催について準備中, 10) 土木振動学便覧編集小委員会に協力, 11) 新潟震災調査委員会に協力, 12) IAEAパネル討論会開催に協力。

(17-1) 土木振動学便覧編集小委員会

委員長 大地 羊三君  
外に委員28名

1) 委員会1回, 2) 「土木技術者のための振動便覧」を41年8月に刊行, 同刊行物をテキストとして昭和41年度夏期講習会(41.8.25~26)を開催。

(18) 岩盤力学委員会

委員長 岡本 舜三君 副委員長 畑野 正君  
外に委員57名(うち 主査3名, 幹事長1名, 幹事6名)

1) 委員会1回, 運営委員会6回, 幹事会2回, 編集委員会15回, 打合せ2回, 分科会20回(第1・6回, 第2・8回,

第3・6回), 2) 第1分科会(ダム), 第2分科会(トンネル), 第3分科会(理論)の3分科に分れ, それぞれの専門分野につき調査研究を実施, 3) 第4回岩盤力学に関するシンポジウム(41.11.16, 東京都)を開催し, 講演集を刊行, 4) 「土木技術者のための岩盤力学」を41年11月に刊行し, 同刊行物をテキストとして「土木技術者のための岩盤力学講習会」(41.11.17, 東京都)を開催, 5) ずい道の適正覆工時期の研究小委員会(受託)に協力, 6) 国際岩盤力学会議に協力, 7) 第2回岩の力学国内シンポジウム(1967)を4学会共催で開催する件に協力, 8) 岩盤力学文献目録集の作成。

**(18-1) ずい道の適正覆工時期の研究小委員会(受託)**

委員長 岡本 舜三君  
外に委員および幹事 18名

1) 委員会2回, 幹事会4回, 2) ずい道の適正覆工時期の調査研究を実施し, 報告書を提出(41年度で完了)。

**(19) トンネル工学委員会**

委員長 藤井松太郎君 幹事長 加納 俊二君  
外に委員 58名(うち 主査4名)

1) 委員会1回, 運営小委員会5回, 主査幹事会4回, 打合せ1回, 2) トンネル工学に関する調査研究を実施, 3) 第3回トンネル工学に関するシンポジウム(41.11.29~30, 東京都)を開催し, トンネル工学シリーズ3(講演集)およびトンネル工学シリーズ4(わが国シールド工法の実施例・第1集)を刊行, 同時に見学会を実施, 4) トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究小委員会(受託)に協力, 5) 工事の実態調査小委員会に協力, 6) トンネル土圧調査小委員会に協力, 7) シールド工法小委員会に協力。

**(19-1) トンネル土圧調査小委員会**

委員長 村山 朔郎君  
外に委員および幹事 25名

1) 委員会4回, 2) トンネル土圧に関する調査研究を実施, 3) 第3回トンネル工学に関するシンポジウム開催に協力。

**(19-2) シールド工法小委員会**

委員長 西嶋 国造君 副委員長 遠藤 浩三君  
外に委員および幹事 34名

1) 委員会1回, 幹事会4回, 打合せ9回, 2) シールド工事の実績調査を実施, 3) わが国シールド工法実施例・第1集(トンネル工学シリーズ No. 4)を刊行, 4) 第3回トンネル工学に関するシンポジウム開催に協力。

**(19-3) 工事の実態調査小委員会**

委員長 住友 彰君  
外に委員および幹事 19名

1) 委員会5回, 2) わが国トンネル工事の設計, 施工に関する実態調査を実施, 3) 第3回トンネル工学に関するシンポジウム開催に協力。

**(19-4) トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究小委員会(受託)**

委員長 坂本 貞雄君  
外に委員および幹事 21名

1) 委員会5回, 幹事会2回, 打合せ1回, 2) トンネル用鋼製支保工の線形および材質における強度に関し試験研究を実施, 3) 第3回トンネル工学に関するシンポジウムに協力。

**(20) 橋梁構造委員会**

委員長 福田 武雄君

外に委員および幹事 19名

1) 打合せ1回, 2) 第13回橋梁・構造工学研究発表会(41.11.25, 東京都)を共催にて開催, 講演集を刊行, 3) 日本学術会議橋梁・構造工学研究連絡委員会に協力, 4) 国際橋梁・構造工学会議に協力, 5) 田中賞選考委員会に協力。

**(21) コンクリート委員会**

委員長 国分 正胤君  
外に委員および幹事 54名

1) 委員会1回, 主査幹事会2回, 打合せ4回, 懇親会1回, 2) コンクリート標準示方書改訂準備中, 3) コンクリート関係有志懇談会(41.6.15, 東京都)を開催, 4) 太径鉄筋に関する研究小委員会(受託)に協力, 5) 構造用軽量骨材に関する研究小委員会(受託)に協力, 6) 原子力関係コンクリート小委員会(受託)に協力, 7) PC工法小委員会(受託)に協力, 8) 異形鉄筋コンクリート構造物の設計例集改訂小委員会(受託)に協力, 9) フライアッシュ小委員会(受託)に協力, 10) 吉田賞選考委員会に協力, 11) 日本コンクリート会議に協力, 12) 日本学術会議材料研究連絡委員会に協力, 13) 終極強度に関する調査研究を日本建築学会と共同研究に協力, 14) 原子炉用PSコンクリート容器に関する研究小委員会に協力, 15) 減水剤, AE剤に関する実験および調査研究を実施, 16) コンクリート・ライブラリー15号を刊行。

**(21-1) 無筋コンクリート標準示方書改訂小委員会**

委員長 国分 正胤君 主査 樋口 芳朗君  
外に委員および幹事 50名

1) 委員会1回, 主査幹事会2回, 幹事会4回, 打合せ3回, 分科会7回, 2) 無筋コンクリート標準示方書の審議を完了, 出版準備中, 3) 土木学会規準の審議を完了, 出版準備中, 4) 人工軽量骨材コンクリートに関する調査研究を行ない, 設計施工指針(案)を刊行, 5) プレバックドコンクリートに関する調査研究を行ない, 施工指針(案)を刊行。

**(21-2) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会**

委員長 国分 正胤君 主査 河野 通之君  
外に委員および幹事 33名

1) 委員会1回, 幹事会2回, 打合せ15回, 分科会3回, 2) 鉄筋コンクリート標準示方書の審議を完了, 出版準備中, 3) 鉄筋コンクリート工場製品に関する調査研究を行ない, 設計施工指針(案)の刊行準備中。

**(21-3) コンクリート舗装標準示方書改訂小委員会**

委員長 国分 正胤君 主査 河北 正治君  
外に委員および幹事 24名

1) 委員会1回, 2) コンクリート舗装標準示方書の審議を完了, 刊行準備中。

**(21-4) ダムコンクリート標準示方書改訂小委員会**

委員長 国分 正胤君 主査 関 慎吾君  
外に委員および幹事 26名

1) 委員会4回, 2) ダムコンクリート標準示方書の審議を完了, 刊行準備中。

**(21-5) プレストレストコンクリート小委員会**

委員長 国分 正胤君  
外に委員および幹事 62名

1) プレストレストコンクリート設計施工指針の次期改訂にそなえ調査研究を続行中, 2) PC工法小委員(MDC

- 工法)に協力。
- (21-6) 異形鉄筋コンクリート構造物の設計例集の改訂小委員会(受託)  
委員長 国分 正胤 君  
外に委員および幹事 20 名  
1) 委員会 4 回, 2) 異形鉄筋 コンクリート 構造物の設計例集の改訂につき逐条審議。
- (21-7) フライアッシュ小委員会  
委員長 国分 正胤 君  
外に委員および幹事 26 名  
1) 委員会 1 回, 幹事会 3 回, 2) フライアッシュを混和したコンクリート中の鉄筋のさびに関する長期試験のうち 2 年試験のデータ整理, コンクリート・ライブラリーとして刊行準備中。
- (21-8) 構造用軽量骨材に関する研究小委員会(受託)  
委員長 国分 正胤 君  
外に委員および幹事 19 名  
1) 委員会 5 回, 2) 構造用軽量骨材の品質 および 使用方法の標準化の基礎資料を得るため, 国産軽量骨材の共通試験を実施中。
- (21-9) 原子力関係コンクリート小委員会(受託)  
委員長 国分 正胤 君  
外に委員および幹事 29 名  
1) 分科会 2 回, 打合せ 1 回, 2) 放射性廃棄物の海洋投棄用容器の小型模型の設計, 製作を行ない, 実物大容器の基礎資料を得るため調査研究を実施。
- (21-10) 太径鉄筋に関する研究小委員会(受託)  
委員長 国分 正胤 君  
外に委員および幹事 10 名  
1) 委員会 2 回, 打合せ 1 回, 2) 国産太径鉄筋の使用方法的試験を実施中。
- (21-11) PC 工法小委員会(MDC 工法)(受託)  
委員長 国分 正胤 君 主 査 河野 通之 君  
外に委員および幹事 38 名  
1) 委員会 9 回, 見学会 1 回, 2) MDC 工法設計施工に関する調査研究を実施し, プレストレスト コンクリート設計施工指針(案)の MDC 工法編の審議続行中, 3) 上記調査研究のため, 中央高速道路八王子 インターチェンジ MDC 工法工事現場の見学(41.8.19)を実施。
- (21-12) PC 工法小委員会(レオンハルト・レオパ工法)(受託)  
委員長 国分 正胤 君 主 査 河野 通之 君  
外に委員および幹事 37 名  
1) 委員会 1 回, 打合せ 1 回, 2) レオンハルト工法およびレオパ工法設計施工に関する 調査研究を実施し, プレストレスト コンクリート設計施工指針(案)のレオンハルトおよびレオパ工法編の審議続行中。
- (21-13) 原子炉用 PS コンクリート容器に関する研究小委員会  
委員長 国分 正胤 君 主 査 関 慎吾 君  
主 査 猪股 俊司 君  
外に委員および幹事 29 名  
1) 委員会 1 回, 2) 原子炉用 PS コンクリート容器の設計施工に関する調査研究を実施中。
- (22) 原子力土木技術委員会  
委員長 左合 正雄 君  
外に委員および幹事 24 名
- 1) 委員会 11 回, 2) 原子力に関する調査研究を実施, 3) 第 3 回理工学における同位元素研究発表会(41.4.19~21, 東京都)を日本放射性同位元素協会 および 関係学協会と共催, 4) 第 5 回原子力総合シンポジウム(42.2.14~15, 東京都)を日本原子力学会および関係学協会と共催, 5) 原子力関係コンクリート小委員会(受託)に協力, 6) IAEA パネル討論会開催準備に協力。
- (23) 土木計画学研究委員会  
委員長 鈴木 雅次 君 副委員長 米谷 栄二 君  
外に委員および幹事 21 名  
1) 委員会 2 回, 幹事会 2 回, 打合せ 3 回, 2) 第 1 回土木計画シンポジウム(42.1.30)を開催。
- (24) 土木年鑑編集委員会  
委員長 八十島義之助 君 副委員長 片山 祐一 君  
外に委員および幹事 36 名  
1) 委員会 4 回, 主査幹事会 1 回, 打合せ 11 回, 幹事会, その他編集打合せ 10 数回, 2) 土木年鑑(1967 年版)の編集出版。
- (25) 土木製図基準改訂委員会  
委員長 菊池 洋一 君  
外に委員および幹事 17 名  
1) 委員会 11 回, 2) 土木製図基準の改訂につき原案審議。
- (26) 土木工学叢書委員会  
委員長 最上 武雄 君  
外に委員および幹事 8 名  
1) 委員会 2 回, 2) 土木工学叢書全 23 巻の監修。
- (27) 日本土木史編集委員会  
委員長 青木 楠男 君 副委員長 佐藤 寛政 君  
外に委員および幹事 26 名  
1) 委員会 4 回, 準備会 2 回, 2) 日本土木史(昭和 16 年から昭和 40 年)編集につき検討準備中。
- (28) 新潟震災調査委員会  
委員長 岡本 舜三 君  
外に委員および幹事 53 名 専門委員 103 名  
1) 委員会 1 回, 2) 「新潟地震震害調査報告」を編集し 41 年 6 月に刊行。
- (29) 土木技術者研修計画委員会(受託)  
委員長 丸安 隆和 君  
外に委員および幹事 11 名  
1) 準備会 1 回, 幹事会 6 回, 委員会 6 回, 報告書作成打合せ 2 回, 2) スライドによる視聴覚教育の効果判定。
- (30) わかり易い土木講座編集委員会  
委員長 福田 武雄 君 副委員長 後藤 正司 君  
外に委員および幹事 52 名  
1) 幹事会 2 回, 2) わかり易い土木講座全 21 巻の編集。
- (31) 本州四国連絡橋技術調査委員会(受託)  
委員長 青木 楠男 君 副委員長 沼田 政矩 君  
顧問 内海 清温 君 顧問 鈴木 雅次 君  
外に委員および幹事会ならびに幹事補佐 44 名  
1) 委員会 1 回, 打合せ 24 回, 2) 本州四国連絡橋の技術的検討を行なうため, 基礎に関する専門部会, 上部構造に関する専門部会, 耐風設計小委員会, 耐震設計小委員会, 縮小委員会において, 調査研究を実施中, 3) 技術的検討の概要を学会誌 6 月号に掲載, 4) 最終報告書とりまとめを実施中。
- (31-1) 基礎に関する専門部会(受託)

部会長 沼田 政矩君 副部会長 広田 孝一君  
外に委員および幹事 66名

1) 部会7回, 幹事会4回, 設計調査幹事会1回, 打合せ5回, 現地視察1回, 2) 地形, 地質の調査, 橋梁基礎の構造・工法について調査研究を実施, 3) 現地視察(41.8.1~3)を実施, 4) 最終報告書のとりまとめに協力。

**(31-2) 上部構造に関する専門部会(受託)**

部会長 青木 楠男君

外に委員および幹事 53名 特別委員 9名

1) 部会4回, 幹事会3回, 材料調査幹事会5回, 打合せ2回, 2) 長大橋梁の構造・工法, 耐風性, 鋼材等につき調査研究を実施, 3) 最終報告書のとりまとめに協力。

**(31-3) 耐風設計小委員会(受託)**

委員長 平井 敦君

外に委員および幹事 46名

1) 委員会5回, 幹事会7回, 2) 耐風設計に関する諸問題の調査研究を実施, 3) “長径間吊橋の耐風設計に関する講習会”を実施, 4) 最終報告書のとりまとめに協力。

**(31-4) 耐震設計小委員会(受託)**

委員長 岡本 舜三君

外に委員および幹事 54名

1) 委員会5回, 幹事会11回, 特別幹事会3回, 打合せ9回, 2) 耐風性に関する諸問題の調査研究を実施, 3) 最終報告書のとりまとめに協力。

**(31-5) 縮小委員会(受託)**

委員長 青木 楠男君

外に委員 18名

1) 委員会3回, 2) 基礎・上部両部会の審議成果のとりまとめおよび最終報告書原案を作成中。

**(32) 八郎潟干拓船越水道水理特別委員会(受託)**

委員長 本間 仁君

外に委員, 幹事および幹事補佐 17名

1) 委員会2回, 現地視察1回, 2) 八郎潟干拓船越水道計画施行に関する調査研究を実施。

**(33) 河北潟干拓河口工事研究委員会(受託)**

委員長 福田 仁志君

外に委員, 幹事および幹事補佐 22名

1) 委員会3回, 現地視察1回, 2) 河北潟干拓建設事業河口工事施行に関する調査研究を実施。

**(34) 中海干拓事業水理研究専門委員会(受託)**

委員長 速水 頌一郎君

外に委員, 幹事および幹事補佐 25名

1) 委員会1回, 2) 中海干拓事業の中海および周辺水域に及ぼす水理学的影響に関する調査研究を実施。

**(35) 相模川高度利用計画に伴う河口調査委員会(受託)**

委員長 本間 仁君

外に委員および幹事 10名

1) 委員会および打合せ10回, 現地視察3回, 2) 相模川高度利用計画に伴う河口調査を実施。

**(36) 軟弱地盤耐震設計研究委員会(受託)**

委員長 岡本 舜三君

外に委員および幹事 43名

1) 委員会2回, 幹事会4回, 2) 軟弱地盤における橋梁下部構造の耐震設計に関する調査研究を実施。

**V. 本部行事**

**(1) 講演会・研究発表会・シンポジウム**

1) 41.5.28~29: 第21回年次学術講演会(北海道支部実施)

(1) 総合講演 北大クラーク会館  
講演数: 3題 参加者: 700名

(2) 一般講演 北海道大学各教室  
講演数:

I部門 153題 参加者: 延 850名

II部門 165題 参加者: 延 740名

III部門 133題 参加者: 延 520名

IV部門 155題 参加者: 延 630名

2) 41.11.16: 第4回岩盤力学に関するシンポジウム, 土木図書館講堂, 講演数: 特別1題, 一般11題, 参加者: 130名

3) 41.11.22: 第3回衛生工学研究討論会, 土木図書館講堂, 講演数: 13題, 参加者: 150名

4) 41.11.29~30: 第6回トンネル工学に関するシンポジウム, 私学会館講堂, 講演数: 13題, 参加者: 542名

5) 41.12.5~6: 第13回海岸工学講演会, 宮城県県民会館, 講演数: 52題, 参加者: 280名

6) 42.1.31: 第1回土木計画学シンポジウム, 大和証券ホール, 講演数: 19題, 参加者: 230名

7) 42.2.3~4: 第11回水理講演会, 土木図書館講堂, 講演数: 15題, 参加者: 延 400名

8) 42.3.24: M. Abbott氏講演会, 私学会館, 講演数: 1題, 参加者: 25名

**(2) 講習会・研修会**

1) 41.6.28: 長径間吊橋の耐風設計に関する講習会, 大和証券ホール, 講演数: 8題, 参加者: 253名

2) 41.8.1~13: 水工学に関する夏期研修会, 土木図書館講堂, ダム・河川コース(1日~6日); 講義数: 10題, 演習: 3題, 参加者: 110名, 海岸・港湾コース(8日~13日); 講義数: 10題, 演習: 3題, 参加者: 68名

3) 41.8.25~26: 昭和41年度夏期講習会(土木工学における振動と耐震の諸問題), 杉並公会堂, 講演数: 12題, 参加者: 602名

4) 41.11.17~18: 「土木技術者のための岩盤力学」講習会, 虎ノ門共済会館講堂, 講演数: 11題, 参加者: 250名

**(3) 見学会・エクスカーション**

1) 41.5.29~31: 通常総会にともなう見学会

A 札幌市内コース(1日) 参加者: 25名

B 登別・洞爺コース(2日) 参加者: 106名

C 阿寒コース(3日) 参加者: 56名

2) 41.10.21~21: 秋のエクスカーション

見学先: 東京電力梓川総合建設所, 奈川渡ダム, 水殿ダム, 稲核ダム工事, 参加者: 42名

3) 41.11.30: トンネル工学に関するシンポジウムにともなう見学会, 見学先: A班 シールド工法実施現場, 参加者: 100名, B班 凍結工法実施現場, 参加者: 50名

4) 41.12.7: 海岸工学講演会にともなう見学会, 見学先: 塩釜海岸, 松島海岸(双鶴山, 瑞巖寺, 五大堂), 石巻海岸(日和山工業港現場), 女川

港, 参加者; 90 名

#### (4) 懇親会

- 1) 41. 5.28: 通常総会にともなう懇親会, 宮の森ガーデン, 参加者; 500 名
- 2) 41. 5.29: 衛生工学懇親会, 札幌市パークホテル, 参加者; 54 名
- 3) 41. 6.25: コンクリート関係有志懇親会, 土木図書館講堂, 参加者; 63 名

#### (5) その他

- 1) 41. 6.18: 在日研修員のための「第1回土木学会のつどい」(海外連絡委員会), 土木図書館講堂, 映画; 3編, 参加者; 12カ国 17名
- 2) 41.11.24: 第2回国土開発映画コンクール入賞作品発表会, 発明会館ホール, 入賞映画6編上映; 映画賞贈呈(企画8団体), 賞状贈呈(製作8社), 参加者; 200名

#### (6) 関係学協会講演会・講習会等

- 1) 41.4.19~21: 第3回理工学における同位元素研究発表会(共催), 国立教育会館
- 2) 41. 5.20: 「都市再開発」講演会(共催), 大阪科学技術センター
- 3) 41.7.26~29: 応用測定に関する講習会(協賛), 東京都立アイソトープセンター
- 4) 41.9.5~9: 第5回宅地造成技術講習会(共催), サンケイ会館国際ホール
- 5) 41.9.8~9: 第10回材料試験連合講演会(共催), 京大工学部土木総合会館
- 6) 41.10.17: 「路線の計画, 設計の自動化」に関する講演会(共催), 土木図書館講堂
- 7) 41.10.19~20: 第16回応用力学連合講演会(共催), 東京大学工学部5号館講堂
- 8) 41.10.24~26: 日本地震工学シンポジウム(共催), 第一生命ホール
- 9) 41.10.25: コンクリートパイル基礎講習会(協賛), 日消ホール  
41.10.27: " 関電ホール  
41.11. 1: " 名古屋市公会堂
- 10) 41.11.4~5: 第3回災害科学総合シンポジウム(後援), 京大工学部土木工学教室
- 11) 41.11.18: 第13回風に関するシンポジウム(共催), 気象庁講堂
- 12) 41.11.24~26: 第15回レオロジー討論会(共催), 東京工業大学講堂
- 13) 41.11.25: 第13回橋梁構造工学研究発表会(共催), 土木図書館講堂
- 14) 41.12. 2: 第17回構造の軽量化に関するシンポジウム(共催), 土木図書館講堂
- 15) 42.1.26~27: 高分子材料の強度に関する講習会(協賛), 大阪科学技術センター
- 16) 42. 2. 3: シェル構造の発達についての講演会(共催), 東京商工会議所ホール
- 17) 42. 2. 4: 水文学に関するシンポジウム(後援), 土木図書館講堂
- 18) 42.2.14~15: 第5回原子力総合シンポジウム(共催), 国立教育会館

## VI. 支部行事

### (1) 北海道支部

- 1) 商議員会 3回
- 2) 幹事会 6回
- 3) 刊行物編集委員会 4回
- 4) 事務局運営委員会 2回
- 5) 支部奨励賞選考委員会 1回
- 6) 土質工学会, 土木技術会連絡打合せ 1回
- 7) 大会引継金処理委員会 1回
- 8) 支部会計監査 1回
- 9) 講演会  
(1) 41. 6.20: 第1回講演会(土質・建築両学会共催), 講演数; 1題, 参加者; 110名  
(2) 41. 9. 8: 第2回講演会(土質工学会共催), 講演数; 1題, 参加者; 100名  
(3) 41.12. 6: 第3回講演会, 講演数; 2題, 参加者; 120名
- 10) 講習会  
(1) 42. 3. 8: 昭和41年度講習会, 市民会館, 講演数; 6題, 参加者; 120名
- 11) 研究会: 昭和41年度研究会, 市民会館, 発表数; 31編, 参加者; 150名

### 12) 見学会

- (1) 41. 9. 6: 第1回見学会(札幌地区, 土質工学会共催), 見学先; 中山峠, 崎守, 元室蘭トンネル, 苫小牧工業港, 参加者; 30名
- (2) 41.10. 4: 第2回見学会(帯広地区), 見学先; 立体交差, 帯広川改修工事, 狩勝道路改良工事, 参加者; 33名
- (3) 41.10.11: 第3回見学会(室蘭地区, 土質工学会共催), 見学先; 中山峠, 元室蘭トンネル, 苫小牧工業港, 豊平橋, 参加者; 50名

### 13) 映画会

- (1) 41. 7. 9: 第1回学生のための映画会, クラーク会館, 参加者; 90名, 他に質疑応答を行なった
- (2) 41.10.15: 第2回学生のための映画会, 函館工業高等専門学校, 参加者; 50名

### 14) 刊行物

- (1) 42. 2.20: 研究発表会論文集, 論文数; 31編, ページ数; 218ページ, 発行部数; 1600部
- (2) 42. 3. 6: 講習会テキスト, 論文数; 6科目, ページ数; 80ページ, 発行部数; 300部

### (2) 東北支部

- 1) 支部総会: 41.5.10, グランドホテル仙台
- 2) 役員会 2回
- 3) 商議員会 1回
- 4) 幹事会 6回
- 5) 講演会  
(1) 41.12.5~6: 第13回海岸工学講演会(本部開催に協力), 宮城県民会館, 講演数; 52題, 参加者; 280名
- 6) 研究発表会  
(1) 42. 2.21: 技術研究発表会, 宮城県民会館, 発表数; 第1部門15題, 第2部門15題, 特別講演; 2題, 参加者; 200名

### 7) 講座

- (1) 41.10. 5: 第1回技術講座, 山形県自治会館, 講演数: 6題, 参加者: 150名
- (2) 42. 1.11: 第2回技術講座, 岩手県庁講堂, 講演数: 3題, 参加者: 250名
- (3) 関東支部**
- 1) 支部総会: 41. 4.27 土木図書館講堂
- 2) 役員会 1回
- 3) 幹事会 9回
- 4) 顧問会 1回
- 5) 選挙  
(1) 41.4.1~23: 昭和41年度関東地区評議員選挙
- 6) 講演会  
(1) 41. 4.27: エジプトの国土開発, 土木図書館講堂, 講演数: 1題, 参加者: 130名  
(2) 41.11.19: 道路と交通, ニッショーホール, 講演数: 3題, 映画: 2編, 参加者: 200名
- 7) 講習会  
(1) 41.11.11: 舗装, ヤマハホール, 講演数: 5題, 参加者: 510名  
(2) 41.11.18: 新しい工程管理, ニッショーホール, 講演数: 5題, 参加者: 265名  
(3) 41.12.7~9: 現場技術者のための測定技術, 土木図書館講堂, 講演数: 3題, 実習: 3題, 参加者: 69名
- 8) 見学会  
(1) 41. 5.19: 首都高速道路見学会, 参加者: 85名  
(2) 41.8.4~5: 鹿島工業地帯, 利根河口堰, 水郷地方見学会, 参加者: 35名  
(3) 41. 9.27: 都内工事現場見学会, 参加者: 50名  
(4) 41.11.12: 下久保ダム利根川大堰見学会, 参加者: 40名
- 9) 映画会  
(1) 42. 1.14: 学生のための映画会, 早稲田大学7号館, 映画: 3編, 参加者: 150名
- 10) 刊行物  
(1) 41.11.10: 舗装 発行部数 1500部  
(2) 41.11.15: 新しい工程管理 500部  
(3) 41.12. 5: 現場技術者のための測定技術 300部
- (4) 中部支部**
- 1) 支部総会: 41. 4.23 三重県市町村会館
- 2) 役員会 5回
- 3) 幹事会 11回
- 4) 評議員会 1回
- 5) 講演会  
(1) 41. 4.28: 総会にともなう記念講演, 三重県市町村会館, 講演数: 2題, 参加者: 87名  
(2) 41.10. 7: 第1回講演会, 岐阜県市町村会館, 講演数: 2題, 映画: 1編, 参加者: 87名  
(3) 41.10.28: 第2回講演会, 愛知県産業貿易館, 講演数: 2題, 参加者: 72名
- 6) 講習会  
(1) 41. 6.21~22: 「土木構造物の振動と安全性」に関する講習会, 愛知県産業貿易館, 講演数: 11題, 参加者: 189名  
(2) 42. 2.21: 「人工軽量骨材コンクリートの応用」に関する講習会, 愛知県産業貿易館, 講演数: 7題, 参加者: 192名
- (3) 42.2.23~24: 「光弾性と応力塗料による応力測定について」, 名古屋大学工学部教室, 講演数: 1題, 参加者: 43名
- 7) 研究発表  
(1) 41.11.18: 第1回研究発表会, 金沢大学工学部, 発表数: 46題, 特別講演: 1題, 参加者: 167名
- 8) 技術講座  
(1) 41. 9.28: 「土圧並びに間げき水圧測定法」, 名古屋大学工学部, 講演数: 1題, 参加者: 119名
- 9) 見学会(一般)  
(1) 41. 4.23: 総会にともなう見学会, 見学先: 名阪国道, 伊勢志摩スカイライン, 参加者: 60名  
(2) 41. 7.13: 衣浦臨海工業地域見学会, 参加者: 70名  
(3) 41. 8.26: 名鉄バスターミナル見学会, 参加者: 150名  
(4) 41.12. 2: 東名高速道路見学会, 参加者: 116名  
(5) 42. 3. 3: 中央本線複線化工事見学会, 参加者: 94名
- 見学会(学生)  
(1) 41. 6.10: 信州大学生のための見学会, 見学先: 大治浄水場, 名古屋地下鉄道工事, 庄内川橋梁, 名神高速道路, 参加者: 55名  
(2) 41. 6.22~24: 信州大学生のための見学会, 見学先: 東京都内(国鉄総武線練増工事, その他), 参加者: 35名  
(3) 41. 5.18: 金沢大学生のための見学会, 見学先: 東京都内, 参加者: 30名  
(4) 41.11.30: 名古屋工業大学生のための見学会, 見学先: 大治浄水場, 名城下水処理場, 参加者: 60名  
(5) 41.12. 5: 岐阜大学生のための見学会, 見学先: 名古屋市地下鉄金山駅工事, 矢作川P S構築工事, 栗名高速道路, 参加者: 52名
- 10) 懇親会  
(1) 41. 4.23: 総会にともなう懇親会, 鳥羽市 古雅荘, 参加者: 60名
- (5) 関西支部**
- 1) 支部総会: 41.5.10 好文倶楽部
- 2) 商議員会 5回
- 3) 幹事会 13回
- 4) 土木学会賞候補支部推薦詮議委員会 2回
- 5) 役員候補者選考委員会打合せ 1回
- 6) 事務所建設計画準備委員会 1回
- 7) 騒音振動委員会  
準備委員会 2回  
委員会 10回  
幹事会 7回
- 8) 講演会  
(1) 41. 5.10: 総会にともなう講演会, 好文倶楽部, 講演数: 2題, 参加者: 85名  
(2) 41. 5.20: 「都市再開発」講演会(3団体共催), 大



- 阪科学技術センター，講演数；1題，参加者；156名
- (3) 41.11.13：支部年次学術講演会（昭和41年度），大阪市立大学，特別講演数；1題，一般講演数；117題，参加者；373名
- (4) 41.12.1～3：第9回溶射技術講演会および研究発表会（協賛），日刊工業新聞社大阪支社，特別講演数；1題，講演数；7題，研究発表数；7題，参加者；78名
- (5) 41.12.6～7：道路交通工学における最近の諸問題講演会，大阪府厚生会館，講演数；12題，参加者；318名
- (6) 41.12.13：フリューゲ教授講演会（協賛），大阪科学技術センター，講演数；1題，参加者；160名
- (7) 42.1.18：海外事情講演会，好文倶楽部，講演数；3題，参加者；111名
- (8) 42.1.24：大阪都市計画講演会，大阪科学技術センター，講演数；5題，参加者；131名
- (9) 42.3.23：水理構造物の設計における特性曲線の役割についての講演会（Dr. Abbott氏），京都大学，講演数；1題，参加者；26名
- (10) 42.3.16：福井地区講演会（共催），福井商工会館，講演数；4題，映画；2編，参加者；153名
- 9) 講習会
- (1) 41.5.24～25：土木構造物の振動と安全性に関する講習会，大阪科学技術センター，講演数；11題，参加者；367名
- (2) 41.6.21～22：土木構造物の振動と安全性に関する講習会（中部支部共催），愛知県産業貿易館，講演数；11題，参加者；189名
- (3) 41.10.3：大阪地盤図講演会（後援），大阪科学技術センター，講演数；6題，参加者；334名
- (4) 41.10.7：碎石コンクリート講習会（共催），大阪科学技術センター，講演数；7題，参加者；398名
- (5) 41.11.30～12.1：PCに関する講習会（プレストレストコンクリート最近の進歩について），大阪科学技術センター，講演数；9題，参加者；312名
- (6) 41.12.6～7：実用荷重に対する強度講演会（共催），大阪府立工業奨励館，講演数；10題，参加者；127名
- (7) 42.2.15～16：「合板型枠」施工技術講習会（後援），朝日生命ホール，講演数；11題，参加者；413名
- (8) 42.2.21～22：耐震設計に関する講習会（共催），大阪科学技術センター，講演数；9題，映画；1編，参加者；141名
- (9) 42.3.23～24：岩盤の調査計測と設計施工に関する講習会（協賛），大阪科学技術センター，講演数；10題，参加者；118名
- (10) 42.3.27～28：「水理学・水文学における最近の進歩」（中部支部共催），大阪科学技術センター，講演数；23題，参加者；227名
- 10) 研究会
- (1) 41.9.6：地盤凍結工法に関する研究会，大阪科学技術センター，題目数；5題，参加者；174名
- (2) 41.11.11：淀川に関する研究会，大阪科学技術センター，題目数；4題，参加者；138名
- 11) 映画会
- (1) 41.10.21～22：第1回学生のための映画会，京都大学および立命館大学，映画；5編，参加者；京都大学40名・立命館大学93名
- (2) 41.11.12：第2回学生のための映画会，大阪府立工業高等専門学校，映画；4編，参加者；142名
- (3) 41.12.8：第3回学生のための映画会，神戸大学，映画；4編，参加者；62名
- (4) 41.12.10：第4回学生のための映画会，大阪工業大学，映画；6編，参加者；91名
- 12) 見学会（一般）
- (1) 41.6.7：第1回見学会，見学先；摩耶大橋，六甲山トンネル，西神戸地区防潮堤，参加者；174名
- (2) 41.8.10：第2回見学会・見学先；南大阪北港鋼管防波堤，堺埋立造成地，泉北ニュータウン造成地，参加者；69名
- (3) 41.10.11～12：第3回見学会，見学先；黒部川第四発電所，参加者；44名
- 見学会（学生）
- (1) 41.10.29：第1回学生のための見学会，見学先；大阪地下鉄工事，大阪空港工事，参加者；117名
- (2) 41.11.24：第2回学生のための見学会，見学先；大阪空港工事，大阪市地下鉄工事，参加者；62名
- (3) 41.12.14：第3回学生のための見学会，見学先；琵琶湖大橋，愛知川ダム工事，参加者；135名
- 13) 座談会
- (1) 41.6.14：土木構造物のあり方について，大阪科学技術センター，参加者；13名
- (2) 41.10.28：自然改造と生物に関する座談会（河川を中心として），大阪科学技術センター，参加者；13名
- 14) 懇親会
- (1) 41.5.10：総会にともなう懇親会，好文倶楽部，参加者；48名
- (2) 42.1.18：会員懇親会，好文倶楽部，参加者；70名
- (3) 42.3.27：会員懇親パーティー，大阪科学技術センター，参加者；49名
- (4) 42.3.28：講師懇親会，大阪科学技術センター，参加者；31名
- (6) 中国四国支部
- 1) 役員会 1回
- 2) 幹事会 14回
- 3) 講演会，講習会

(1) 41.11.24~25: 第12回支部学術講演会(土質工学会共催), 愛媛大学工学部, 特別講演数: 4題, 一般講演数: 37題, 参加者: 200名

(2) 41. 8.24: 広島銀行会議室, 講演数: 3題, 参加者: 320名

(3) 42. 2.21: 広島合同庁舎会議室, 講演数: 4題, 参加者: 200名

4) 見学会

(1) 41. 9.28: 第1回見学会, 見学先: 中国電力 新成羽川発電所ダム, 参加者: 50名

(2) 42. 2.22: 第2回見学会, 見学先: 安芸大橋, 新広島国道, 呉造船所, 参加者: 92名

(3) 42.3.14~16: 第3回見学会, 見学先: 国道 57号線, 天草五橋, 山波ハイウエー, 参加者: 45名

5) 優秀卒業生表彰

(1) 41.2: 大学工学部 4校 4名, 短期大学 1校 1名, 工業高等学校 26校 26名

(7) 西部支部

1) 支部総会: 42. 1.30 福岡平和台学舎

2) 評議員および幹事会 1回

3) 講演会

(1) 41.10.28: 合同講演会(日本金属学会, 日本鉄鋼協会共催), 九州大学工学部, 講演数: 6題, 参加者: 100名

4) 講習会

(1) 41. 8.20: 昭和41年度支部夏季講習会, 九重ハイランドホテル, 講演数: 9題, 参加者: 175名

5) 研究発表会

(1) 41.12. 8: 第6回新材料新工法発表会, 明治生命ビル, 発表数: 9題, 参加者: 191名

(2) 42. 1.30: 研究発表会, 福岡平和台学舎, 発表数: 76題, 参加者: 236名

6) 見学会

(1) 41. 8.21: 夏季講習会にともなう見学会, 見学先: 別府観光港, 大分団体競技場, 参加者: 135名

7) 映画会

(1) 42. 2.14: 巡回映画会, 宮崎市自治会館, 映画: 5編, 参加者: 70名

(2) 42. 2.16: 巡回映画会, 熊本市県立図書館, 映画: 5編, 参加者: 600名

(3) 42. 2.18: 巡回映画会, 福岡市明治生命ホール, 映画: 5編, 参加者: 200名

VII. 会員年間統計

年別	正会員	特別会員					名誉会員	賛助会員	学生会員	合計		
		特級	一級A	一級B	一級C	一級D						
41.3	17756	19	15	51	201	325	51	662	59	30	3741	22 248
42.3	18782	19	16	51	209	326	58	679	61	30	4318	23 870
増減	+1 026	0	+1	0	+8	+1	+7	+17	+2	0	+577	+1 622

議案 2. 昭和41年度決算報告書 (自昭和41年4月1日 至昭和42年3月31日)

飯吉理事よりつぎのとおり説明があり承認された。

1. 普通会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 会費	56 814 097	1 用地費	908 832
1 正会員	34 649 078	2 事務費	25 507 483
2 学生会員	3 337 173	1 人件費	20 038 423
3 特別会員	18 827 846	2 備品消耗品費	1 238 974
2 論文集購読料	3 665 664	3 通信費	2 002 537
3 刊行物売上	39 576 137	4 水道光熱費その他	2 227 549
1 既刊行物	15 218 092	3 会費徴収費	1 595 966
2 新刊行物	24 358 045	4 公祖公課費	1 046 323
4 行事費	7 333 659	5 会議費	3 312 541
1 講習会	7 164 659	1 総代会	968 621
2 見学会	169 000	2 役員会	2 343 920
5 広告収入	19 726 600	6 支部交付金	7 654 678
1 学会誌	17 533 040	7 会誌発行費	30 010 246
2 論文集	504 000	8 論文集発行費	5 094 865
3 その他	1 689 620	9 刊行物費	29 329 465
6 預金利子その他	1 773 405	1 既刊行物	11 423 012
7 委託研究費	31 269 935	2 新刊行物	17 906 453
8 印刷税	706 000	10 行事費	7 474 230
9 図書館使用料	709 880	1 講演会	964 893
10 雑収入	213 191	2 講習会	5 991 991
		3 見学会	192 940
		4 映画コンクール	324 406
		11 土木学会賞費	775 821
		12 調査研究費	6 248 027
		13 委託研究経費	26 211 826
		14 図書整備費	816 739
		15 施設維持費	55 620
		16 引当金	5 300 000
		17 渉外費	40 128
		18 広報費	102 730
		19 雑費	474 087
		20 子備費	0
		21 委託研究費残額繰越(預り金勘定に保留)	5 058 109
		22 繰越金勘定へ繰入	4 770 911
合計	161 788 628	合計	161 788 628

繰越金内訳

前年度より繰越額(累計) 8 191 501 円  
 40年度分一般基金へ組入(利子の一部) 22 617 〃  
 当年度普通会計より繰入 4 770 911 〃  
 次年度へ繰越額 12 939 795 〃

2. 吉田賞会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 東京電力株配当金	1 942 500	1 賞金	50 000
2 貸付信託預金利子	258 532	2 奨励金	980 000
3 銀行預金利子	37 576	3 賞牌	2 040
4 前年度より繰越金	1 156 612	4 受賞者旅費	207 970
		5 委員会費	159 830
		6 論文審査費	116 900
		7 事務費	18 428
		8 雑費	0
		9 次年度へ繰越金	1 860 052
合計	3 395 220	合計	3 395 220

### 3. 田中賞会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 寄付金の内受入額	628 000	1 委員会費	68 630
2 貸付信託預金利息	221 675	2 論文審査費	66 450
3 銀行預金利息	203 415	3 事務費	8 325
		4 次年度へ繰越金	909 685
合計	1 053 090	合計	1 053 090

### 4. 日本土木史編集会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
50周年記念事業 残余金繰入	4 305 103	日本土木史 編集委員会費	271 890
銀行預金利息	81 558	次年度へ繰越金	4 114 771
合計	4 386 661	合計	4 386 661

### 5. 貸借対照表

(昭和42年3月31日現在)

資産の部 (借方)		負債の部 (貸方)	
科目	金額	科目	金額
1 現金	281 570	1 基金	41 437 698
2 預金	25 541 349	1 一般基金	7 809 273
3 有価証券	35 342 311	2 吉田博士記念基金	23 165 925
4 売掛金	7 287 267	2 田中博士記念基金	10 462 500
5 未収入金	15 361 873	2 事務所及設備元入金	9 609 297
6 棚卸図書	10 816 348	3 図書館建設元入金	39 211 029
7 仕掛品	550 004	4 引当金	6 065 074
8 仮払金	10 000	5 未払金	14 515 114
9 立替金	1 716 118	6 預り金	13 487 263
10 前払金	166 589	7 前受金	1 877 129
11 建物及諸施設	40 643 072	8 仮受金	432 128
12 什器及備品	8 742 534	9 吉田賞会計	1 860 052
		10 田中賞会計	909 685
		11 日本土木史編集会計	4 114 771
		12 普通会計繰越金	12 939 795
合計	146 459 035	合計	146 459 035

### 6. 財産目録

(昭和42年3月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
1 現金	281 570	1 未払金	14 515 114
2 預金	25 541 349	2 預り金	13 487 263
3 有価証券	35 342 311	3 前受金	1 877 129
4 売掛金	7 287 267	4 仮受金	432 128
5 未収入金	15 361 873	5 減価償却引当金	3 673 166
6 棚卸図書	10 816 348	6 純資産	112 474 235
7 仕掛品	550 004		
8 仮払金	10 000		
9 立替金	1 716 118		
10 前払金	166 589		
11 建物及諸施設	40 643 072		
12 什器及備品	8 742 534		
合計	146 459 035	合計	146 459 035

### 7. 基金内訳

(昭和42年3月31日現在)

受入年月	基金名称	42年3月 末基金額	基金繰 入利息	合計
大 4. 3	古市 公威 博士記念基金	26 567	585	27 152
" "	沖野 忠雄 博士			
" 8. 4	白石 直治 博士	23 552	519	24 071
" 9. 5				
" 8. 12	山崎鉦次郎 博士	2 501	55	2 556
" 9. 6	広井 勇博士土木賞牌基金	762	17	779
" 11. 4	原田 貞介 博士記念基金	4 877	108	4 985
昭 3. 6				
大 11. 12	広井 勇 博士	15 679	345	16 024
" 11. 12	小川権三郎博士還暦記念基金	1 646	36	1 682
" 12. 2	富田保一郎 博士記念基金	824	18	842
" 13. 4	石黒五十二 博士	10 501	231	10 732
" 13. 7	近藤虎五郎 博士	13 300	440	13 740
" 14. 4	中島 鋭治 博士	4 878	107	4 985
" 14. 4	坂田 貞明 博士	1 833	40	1 873
" 14. 9	岡崎 芳樹 博士	2 917	64	2 981
昭 6. 12	太田 円三 博士	3 850	85	3 935
" 8. 2	坂本 雅雄 博士	890	20	910
" 8. 5	川上浩二郎 博士	1 223	27	1 250
" 10. 2	古市 公威博士土木賞牌基金	624	14	638
" 10. 7	来島 良亮 博士	617	14	631
" 11. 4	中山秀三郎 博士	614	14	638
" "	中山秀三郎 博士記念基金	2 462	54	2 516
" 12. 2	岡崎 文吉 博士	1 544	34	1 578
" 14	野口 誠 博士	1 215	27	1 242
" 16	物部 長徳博士土木賞牌基金	727	16	743
" 17	中川 吉造 博士記念基金	3 636	80	3 716
" 35. 7	黒河内四郎 博士	1 103	24	1 127
" 39. 4	藤井 真透 博士	103 860	2 457	106 317
" 39. 6	真田 秀吉 博士			
" "	谷口 三郎工学士	726 474	17 197	743 671
" "	青山 工学士			
" 26. 6	日本放送電株株式会社	5 000 000		5 000 000
" 36. 10	吉田徳次郎 博士	23 165 925	700 000	23 865 925
" 41. 6	田中 豊 博士	10 462 500		10 462 500
" "	関西支部維持基金	27 696		27 696
	諸 積 立 金	1 822 901		1 822 901
合 計		41 437 698	722 628	42 160 326

### 8. 引当金

(昭和42年3月31日現在)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 前年度繰越額	3 008 174	1 引当金取崩額	2 243 100
2 退職手当引当金	835 008	1 退職手当引当金	2 243 100
1 減価償却引当金	2 173 166	2 次年度へ繰越	6 065 074
2 本年度受入	5 300 000	1 退職手当引当金	1 091 908
1 退職手当引当金	2 500 000	2 減価償却引当金	3 673 166
2 減価償却引当金	1 500 000	3 名簿発行引当金	1 300 000
3 名簿発行引当金	1 300 000		
合計	8 308 174	合計	8 308 174

### 監査報告書

上記、昭和41年度決算報告書(普通会計、吉田賞会計、田中賞会計、日本土木史編集会計)、貸借対照表、財産目録、付属明細表を監査の結果、適正妥当と認めます。

昭和42年5月10日

監事 井 関 正 雄 ㊟  
監事 橋 好 茂 ㊟

### 議案 3. 名誉会員の推挙

篠原会長よりつぎのとおり候補者の推せんがあり、承認されたので、新名誉会員の紹介があり、当日出席の福田・宮本両氏に推挙状が渡された。

内 林 達 一 君 五洋建設(株)専務取締役  
大 坪 喜久太郎君 室蘭工業大学学長  
福 田 武 雄 君 東京大学名誉教授  
宮 本 保 君 東日本コンクリート工業(株)社長

### ◀報告 評議員会の決議事項

1. 第 52 回通常総会提出議案その他：前掲省略 41.5.12 定例評議員会にて可決
2. 昭和 42 年度事業計画および予算：42.3.29 定例評議員会にて可決

#### 42 年度事業計画

土木工学に関する学術、技術の水準を高めるため、各分野の調査研究を活発に行ない、学会誌、論文集の内容を充実し、新刊図書、刊行を図り、研究発表会、講演会、講習会、見学会等の行事を盛んにし、海外との交流も密にし、もって学術文化の向上進展に寄与する。

また、正会員および特別会員の増加については、各地域に応じた活動を積極的に推進する。

本年度の主な事業は、つぎのとおりである。

#### 1) 総会 42.5.26 広島市

昭和 41 年度事業報告および決算報告  
名誉会員の推挙  
評議員会の決議事項の報告  
土木学会賞および吉田研究奨励金の授与  
新理事および新監事の紹介

#### 2) 評議員会

4 月末日まで 半数改選  
5 月 定例会議

#### 総会提出議案の審議

#### 3 月(43 年)定例会議

昭和 43 年度事業計画および予算の決定

#### 3) 理事会

毎月 1 回 会務決定  
4 月末日まで 理事および監事半数改選

#### 4) 支部長および支部幹事長会議：不定期 2 回

#### 5) 各種委員会

1. 表彰委員会：土木学会賞の募集、功績賞、技術賞の選考ならびに決定、論文賞、吉田賞、田中賞の調整ならびに決定を行なう。
2. 論文賞選考委員会：論文賞の選考を行なう。
3. 吉田賞選考委員会：吉田賞の選考を行ない、吉田研究奨励金被授与者の選考ならびに決定を行なう。
4. 田中賞選考委員会：田中賞(作品部門・論文部門)の選考を行なう。
5. 学術講演連絡委員会：年次学術講演会、夏期講習会等の企画ならびに調整を行なうほか、各委員会と連絡をとり行事の企画ならびに調整を行なう。
6. 大学土木教育委員会：大学土木教育についての調査研究を行ない、シンポジウムを開催する。

7. 高校土木教育研究委員会：高校土木教育についての編集研究を行ない、測量実習指導書、高校土木教育白書の企画を行なうほか、学習指導要領を検討する。
8. 会誌編集委員会：土木学会誌 52 巻 4 号～53 巻 3 号の編集を行ない、内容の充実をはかる。
9. 論文集編集委員会：土木学会論文集 140 号～151 号の編集を行ない、内容の充実をはかる。
10. 文献調査委員会：内外文献の調査、収集、整理を行ない、文献目録および抄録を作成し土木学会誌に掲載する。
11. 土木図書館運営委員会：図書、文献、資料、フィルム等の収集ならびに整備をはかるほか、土木図書館の運営を審議する。
12. 出版企画委員会：出版物の企画ならびに調整を行なう。また、監修出版物の調整を行なう。
13. 土木工学叢書委員会：土木工学叢書の監修ならびに調整を行なう。
14. 土木年鑑編集委員会：土木年鑑 1968 年版の編集を行なう。
15. 土木製図基準改訂委員会：土木製図基準改訂版出版後のアフターケアを行なう。
16. わかり易い土木講座編集委員会：中堅技術者のための土木講座の編集を行なう。
17. 日本土木史編集委員会：昭和 16 年より昭和 40 年までの日本土木史の編集を行なう。
18. 土木用語委員会：土木用語集の調整ならびに監修を行なう。
19. 土木技術者研修計画委員会：港湾技術者用教育の効果的な方法の検討とスライド教材による教育効果の調査を行なう。
20. 土木計画学研究委員会：土木計画のあるべき姿とその問題点を検討し、あわせて計画に関する調査研究を推進し、シンポジウムを開催する。
21. 海外連絡委員会：Civil Engineering in Japan 1967 を編集し、わが国の土木工学を海外に P R するほか、国際会議の連絡等海外との交流をはかる。
22. 水理委員会：水理学に関する調査研究を行なうほか、第 4 回水工学夏期研修会を 7 月下旬名古屋で、第 12 回水理学講演会を 2 月東京都で開催する。また、UNESCO の国際水文学 10 カ年計画(International Hydro-logical Decade)に協力し、国際水理学会(IAHR)の日本開催(1969 年)に協力する。
23. 海岸工学委員会：海岸工学に関する調査研究を行なうほか、第 14 回海岸工学講演会を 10 月横浜市で開催し、その講演集および英文論文集(Coastal Engineering in Japan Vol 10)を編集する。また、関係の委託研究委員会に協力するほか、海岸保全施設設計便覧の改訂を企画する。
24. 耐震工学委員会：耐震工学に関する調査研究を行ない、国内国外の連絡をはかり国際会議に協力するほか、地震工学トレーニングセンター、日本学術会議地震工学研究連絡委員会、軟弱地盤耐震設計研究委員会、本州四国連絡橋耐震設計小委員会その他関係委託研究委員会に協力する。また、第 9 回地震工学研究発表会を 10 月東京都で開催する。
25. 岩盤力学委員会：岩盤力学に関する調査研究を行なうほか、第 2 回岩の力学シンポジウムを 11 月鉱業・土質・材料の各学会と共催する。また、国際会議および各分科会に協力する。
26. 原子力土木技術委員会：原子力土木技術に関する講演、

報告、資料の収集等を行なうほか、関係機関に協力する。

27. 衛生工学委員会：衛生工学に関する調査研究を行ない、国際会議に協力する。また、第4回衛生工学研究討論会を8月札幌市で開催するほか、火力発電所の排水処理に関する研究委員会等委託に関する委員会に協力する。

28. 橋梁構造委員会：橋梁構造工学に関する調査研究を行なうほか、国際橋梁構造工学協会（IABSE）との連絡をはかる。また、鋼材関係 JIS の研究につき材料分科会・橋のレポートの編集につき田中賞委員会に協力する。

29. トンネル工学委員会：トンネル工学に関する調査研究を行ない、トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究小委員会、トンネル土圧小委員会、工事実態調査小委員会、シールド工法設計施工指針小委員会、トンネル文献調査小委員会、トンネル標準示方書検討小委員会および関係の委託研究委員会に協力する。また、第4回トンネル工学に関するシンポジウムを3月東京都で開催するほか、青函トンネル工事見学を7月に行なう。

30. コンクリート委員会：コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する調査研究を小委員会、分科会を設けて活発に行なうほか、従来に引き続きプレストレストコンクリート、フライアッシュ、軽量骨材、異形鉄筋等コンクリートに関する委託研究を行なう。また改訂コンクリート標準示方書の説明会および同解説による講習会を開催するほか、日本コンクリート会議に協力する。

31. 予想される委託研究委員会：
- ① 本州四国連絡橋技術調査委員会；建設省・日本鉄道建設公団からの共同委託（継続）により、本州四国連絡橋に関する技術的検討を行なう。
  - ② コンクリート委員会関係；④ フライアッシュ協会からの委託（継続）によりフライアッシュを混入したコンクリート中における鉄筋のさびに関する長期の調査研究を行なう。⑤ 各種 P C 工法設計施工指針の作成を行なう（継続）。⑥ 軽量骨材製造会社からの委託（継続）。
  - ③ 海岸工学委員会関係；④ 農林省北陸農政局からの委託（継続）により、河北潟干拓河口工事に関する調査研究を行なう。⑤ 農林省中国四国農政局からの委託（継続）により、中海干拓事業の中海および周辺水域におよぼす水理学的影響に関する調査研究を行なう。
  - ④ 耐震工学委員会関係；日本国有鉄道からの委託（継続）により、軟弱地盤における橋梁下部構造の耐震設計に関する調査研究を行なう。
  - ⑥ 土木技術者研修計画委員会関係；運輸省第2港湾建設局より委託（継続）港湾技術者教育の効果的方法の検討ならびにスライドによる教育効果の調査を行なう。

6) 行事

- 4月 第4回理工学における同位元素研究発表会（共催）（東京都）
- 5月 第22回年次学術講演会および見学会（中国四国）  
コンクリート標準示方書改訂主旨説明会（東京都）
- 6月 第5回接着研究発表会（共催）（東京都）
- 7月 第4回水工学夏期研修会（名古屋市）
- 8月 夏期講習会（東京都）  
第4回衛生工学研究討論会（札幌市）
- 9月 第11回材料研究連合講演会（共催）（東京都）
- 10月 第17回応用力学連合講演会（共催）（東京都）  
第9回地震工学研究発表会（東京都）

- 第14回海岸工学講演会（横浜市）  
秋のエキスカージョン（場所未定）
- 11月 第14回橋梁構造研究発表会（共催）（東京都）  
第2回岩の力学シンポジウム（共催）（東京都）
- 2月 第12回水理講演会（東京都）
- 3月 第4回トンネル工学に関するシンポジウム（東京都）

その他、随時講演会、シンポジウム、講習会、見学会、映画会等を開催する。

各支部においても、講演会、シンポジウム、講習会、見学会、映画会、学生のための催し等を定期または随時開催する。

昭和42年度予算

（自昭和42年4月1日～至昭和43年3月31日）

1. 普通会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 会費	57 590 000	1 用地費	909 000
1 正会員	36 210 000	2 事務費	32 095 000
2 学生会員	3 500 000	1 人件費	25 090 000
3 特別会員	17 880 000	2 備品、消耗品費	1 620 000
2 論文集購読料	3 670 000	3 通信費	2 220 000
3 刊行物売上代	40 633 000	4 水道光熱費その他	3 165 000
1 既刊行物	14 747 000	3 会費徴収費	1 505 000
2 新刊行物	25 886 000	4 公祖公課	15 000
4 行事費	7 438 000	5 会議費	4 315 000
1 講習会及講演会	7 268 000	1 総会費	1 665 000
2 見学会	170 000	2 役員会議	2 650 000
5 広告収入	23 550 000	6 支部交付金	7 670 000
1 学会誌	18 400 000	7 会誌発行費	31 300 000
2 論文集	500 000	8 論文集発行費	5 056 000
3 学会名簿	3 500 000	9 名簿発行費	6 165 000
4 その他	1 150 000	10 刊行物経費	24 722 000
6 預金利子その他	1 686 000	1 既刊行物	7 022 000
7 委託研究費	16 000 000	2 新刊行物	17 700 000
8 印刷税	807 000	11 行事経費	6 728 000
9 図書館使用料	524 000	1 講習会及講演会	6 558 000
10 雑収入	20 000	2 見学会	170 000
		12 土木学会賞費	640 000
		13 調査研究費	7 450 000
		14 委託研究経費	14 400 000
		15 図書整備費	1 000 000
		16 施設維持費	70 000
		17 引当金	4 500 000
		18 渉外費	200 000
		19 広報費	200 000
		20 学協会費	400 000
		21 予備費	2 578 000
合計	151 918 000	合計	151 918 000

2. 吉田賞会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 東京電力株配当金	2 190 000	1 賞励金	100 000
2 貸付信託預金利子	299 000	2 奨励金	1 300 000
3 銀行預金利子	37 000	3 賞者旅費	5 000
4 前年度より繰越金	1 730 000	4 賞者旅費	160 000
		5 委員審査費	210 000
		6 文書審査費	110 000
		7 事務費	70 000
		8 雑費	5 000
		9 次年度へ繰越金	2 296 000
合計	4 256 000	合計	4 256 000

### 3. 田中賞会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 鉄道建設債券利子	375 000	1 賞 牌	380 000
2 貸付信託預金利子	397 000	2 受 賞 者 旅 費	100 000
3 銀行預金利子	6 000	3 論 文 審 査 費	110 000
4 前年度より繰越金	872 000	4 委 員 会 費	134 000
		5 事 務 費	38 000
		6 次年度へ繰越金	888 000
合 計	1 650 000	合 計	1 650 000

### 4. 日本土木編集会計

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
1 利子収入	190 000	1 委 員 会 費	400 000
2 前年度より繰越金	4 150 000	2 資 料 収 集 費	1 155 000
		3 編 集 諸 費	1 095 000
		4 次年度へ繰越金	1 690 000
合 計	4 340 000	合 計	4 340 000

## 表 彰

表彰委員会委員長の篠原会長より別掲のような功績賞の授賞経過および理由の説明があり、つづいて論文賞の授賞経過および理由を本間論文賞選考委員会委員長、吉田賞の授賞経過および理由を岡部吉田賞選考委員会委員長、また今年度より新しく設けられた田中賞の授賞経過および理由を福田田中賞選考委員会委員よりそれぞれ説明があり、つぎのとおり表彰が行なわれた。

#### 1. 土木学会賞の授与

##### 功績賞：

田 淵 寿 郎 君  
青 木 楠 男 君

功績賞を受ける青木名誉会員（左）



##### 技術賞：

名神高速道路の建設 日本道路公団 殿

##### 論文賞：

#### (1) 論文賞

曲線桁橋の自由振動に関する研究（英文）

（土木学会論文集第136号 41年12月）

小 松 定 夫 君

中 井 博 君

#### (2) 論文奨励賞

○乗心地の立場から見た軌道高低狂いの整備限度

（鉄道技術研究報告 No. 549 41年8月）

佐 藤 吉 彦 君

○長波のうちあげ高

（第13回海岸工学講演会講演集 41年12月）

首 藤 伸 夫 君

○ Flow and Stress Relaxation of Clays

著者名 村 山 朔 郎

柴 田 徹 君

（Rheology and Soil Mechanics, 1966

International Union of Theoretical and Applied Mechanics）

柴 田 徹 君

#### 吉田賞：

○高炉セメント コンクリートの研究

（東京大学生産技術研究所報告）

（第15巻 第4号 41年2月）

丸 安 隆 和 君

小 林 一 輔 君

阪 本 好 史 君

○鉄道橋としての鉄筋コンクリート斜角げたの設計に関する研究

（鉄道技術研究報告 No. 481 40年6月）

松 本 嘉 司 君

#### 田中賞：

##### (1) 論文部門

○ On the Behavior of Suspension Bridges under Wind Action.

（Proc. of Symposium on Suspension Bridges 40年11月）

平 井 敦 君

岡 内 功 君

宮 田 利 雄 君

##### (2) 作品部門

○天門橋（天草五橋のうち）

○目黒架道橋（首都高速2号線）

#### 2. 吉田研究奨励金の授与

○大きな集中荷重を受ける栈橋式けい船岸の鉄筋コンクリート床版の極限設計に関する研究

堀 井 修 身 君

関 博 君

○コンクリート箱桁の曲げ振りに関する研究

尾 崎 詔 君

○コンクリートのひびわれ発生と熱特性との関係

徳 田 弘 君

○人工軽量骨材コンクリートの合成はりの設計に関する研究

小 林 和 夫 君

○異形鉄筋の溶接部の強度

山 崎 淳 君

○砕石コンクリートに関する基礎的研究

山 本 恭 彦 君

○高張力異形鉄筋の有効な使用方法の研究——異形鉄筋の付着と鉄筋周辺のひびわれ——

朝 倉 肇 君

多 田 信 幸 君

◀新任理事および監事の紹介

篠原会長よりつぎのとおり42年度新役員の紹介があった。

	新任	留任	職名
会長	富樫 凱一君		日本道路公団総裁
副会長		酒井 忠明君	北海道大学教授
		最上 武雄君	東京大学教授
専務理事	仁杉 巖君		日本国有鉄道常務理事
	松見 三郎君		中日本建設コンサルタント(株)副社長
理事	羽田 巖君		名古屋土木局長
	伊藤 富雄君	栗田 亀造君	大阪大学教授
		飯吉 精一君	鉄建建設(株)専務取締役
	石井 興良君		東京都建設局長
	石橋 多聞君		東京大学教授
	市原 松平君		名古屋大学教授
	岩崎 敏夫君		東北大学教授
	川崎 敏視君		日本鉄道建設公団計画部計画課長
		神田九思男君	建設省九州地方建設局長
	倉橋 力雄君		北海道開発局建設部道路建設課長
		米谷 栄二君	京都大学教授
		堺 毅君	日本大学教授
篠原 謹爾君			九州大学教授
高石 康君			電源開発(株)土木試験所長
高橋 浩二君			日本国有鉄道建設局計画課長
		広瀬 可一君	首都高速道路公団神奈川建設局長
福山真三郎君			大阪市港湾局長
村田 清逸君			中国電力(株)土木部長
	森本 茂男君		運輸省港湾局防災課長
	横戸 実君		建設省東北地方建設局企画室長
	横道 英雄君		北海道大学教授
	吉田 登君		関西電力(株)支配人
	渡辺 隆二君		建設省河川局治水課長
渡辺 豊君			建設省四国地方建設局長
監事	小池 蒼君		西松建設(株)常務取締役
		橋 好茂君	(株)鴻池組常務取締役

以上をもって議事を終了し、篠原議長より謝辞があり、ついでつぎの映画が上映され17時散会した。

- 新広島国道
- よみがえる河



日がすでに行なわれて、大会気分が盛り上げてきたところでの懇親会という段取りで、参加人員600名という予想以上の盛会となった。

まず、小林元榎大会実行委員長の歓迎の挨拶につづいて、篠原武司前会長、富樫凱一新会長の挨拶、さらに萩原広島県副知事の祝いの言葉があり、宮本保名誉会員の発声で乾杯開宴となった。夏は蒸し風呂のような瀬戸内の夕刻も、さすがに5月といえばさわやかで、広島としては数少ない庭園の滝を眺めてのビールは格別ではなかったかと思う。この会場となった羽田別荘は、大正時代に羽田という人が創始した料亭で、戦前には、歌劇とか手品が行なわれたそうで、特に歌劇はハダカゲキ(羽田歌劇)と呼ばれて有名だったそうで、食事をしたり観劇したりというわけで、当時のレストランシアターという所だったので。戦争により爆心地から1kmほどなので灰燼に帰したのであるが、最近では、庶民の憩いの場として復活しているわけである。

ビールの酔がまわり、めずらしい顔を見つけての挨拶がすんだころ、地元豊平町豊平田楽団による「はやし田」という民芸が披露されて、会はずみさかんに変わった。19時頃九大教授水野高明氏の発声で万才三唱し盛大に宴を閉じた。

「はやし田」の披露



第22回年次学術講演会

今年の年次学術講演会は、まず5月27日午前中に見真講堂における総合講演会を皮切りに、同日午後および28日には、一般講演が広島大学教養部の12会場に分かれて行なわれ、発表者、聴講者ともに多く非常に盛会であった。

懇親会

5月27日(土)18時より広島市内の羽田別荘において、懇親会が行なわれた。前日には通常総会、当日には午前中に見真講堂で総合講演会、午後には広島において年次学術講演会の第1

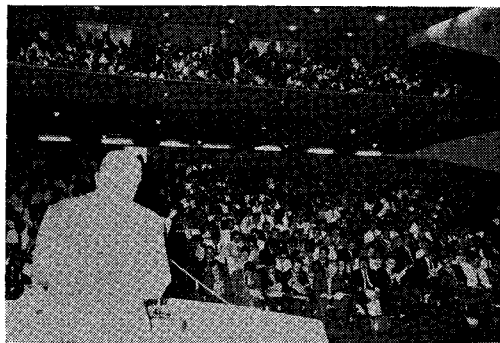
## 総合講演会

総合講演会は、5月27日(土)午前9時より12時まで見真講堂で行なわれた。見真講堂は西本願寺の別院の所有で定員800名であるが講演の始まる頃には、多くの会員と報道関係者が詰めかけ、ほぼ満員となり定刻に建設省中国地建企画室長 松崎彬磨氏の司会により、土木学会長 篠原 武司氏の「鉄道の現代と将来」という講演が始められた。この講演は、鉄道の現状は近代化が遅れ年々シェアは減っているが、輸送量は増加しており、将来は鉄道に適した遠距離、中距離と通勤・通学輸送ならびに国土開発を促進する交通を担当すべきであり、鉄道網としては、日本縦貫鉄道網、大都市の高速鉄道を考えていると述べている。

ついで広島大学教授米倉二郎氏の「古代の国土計画 一 中四国における条里の施行」という題の講演が行なわれた。わが国の国土計画としては、646年に発布された大化改新の諸施策がまさにその初まりであり、そこでは畿内という首都圏を設定し、全国を国郡に分割し、各国を連ねる駅路つまり交通施設を設け、田の画地割りの計画をなしていると述べている。さらに条里制とその技術について説明し、国府の計画、耕地および村落の計画に触れて、最後に今日の地域開発計画について、すぐれた国土計画を実施した先祖の偉業をしのび、真の意味における国土計画を構想実施しなければならないと述べている。

最後に土木学会本州四国連絡橋技術調査委員会の委員長である青木楠男氏の「本州四国連絡橋技術調査委員会における技術的問題点」と題する講演を行なった。これは近時日本全国の注目を集めている話題なので、特に報道関係者も熱心に聴講していた。内容は、上部構造、下部構造の耐風耐震についての設計指針、橋梁配置計画の問題で橋梁の規程、形式、基礎の構造、工法、さらに今後解明すべき問題について触れている。

演員の聴衆の集った総合講演会場

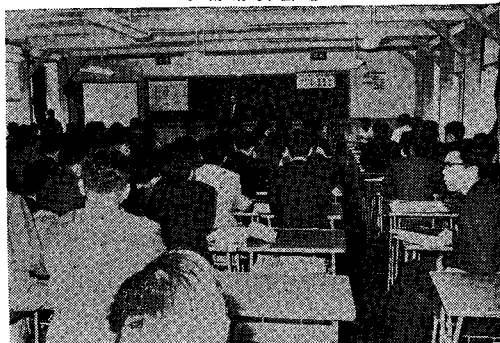


## 一般講演

本年の一般講演の発表論文数は、第I部門(応用力学・構造力学・橋梁等)183編、第II部門(水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等)186編、第III部門(土質力学・基礎工学・土木機械・施工等)163編、第IV部門(鉄道・トンネル・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・交通・都市計画・測量等)196編で、計728編であり、昨年より112編増え、これを12会場にわけて講演発表が行なわれた。発表者を分析してみると学校の教授あるいは学生によるもの516編71%、学校関係者以外によるもの212編となっているが、そのうち学校関係と共同執筆のものが75編10%で、全く学校関係者以外によるものは137編19%となっている。

本年の発表形式は各部門とも一般報告と個人報告を併用し、

学術講演会場



学術講演会場



一般報告者には年長の学識経験者を、司会者には新進の若手陣を配している。

この一般講演に対する2,3の人々の感想を集めると、来年から延長が決まったそうだが、時間が短かすぎること、発表者もそうであるが、受講者も学校関係が多く、せっかくの研究の成長と実際とが結びつきにくいのではないかということ、立って聴講している人もあり教室が狭まり所もあった等であった。

つぎに各部門における司会者、一般報告者および聴講者数はつぎのとおりであった。

### 第I部門

#### 司会者:

川本 眺万・佐武 正雄・小堀 為雄・福本 嘸士  
 芳村 仁・吉田 裕・児嶋 弘行・高木 澄清  
 岡内 功・山本 弘夫・渡辺 昇・波田 凱夫  
 白石 成人・山本 稔・岡村 宏一・伯野 元彦  
 西村 昭・古賀 太郎

#### 一般報告者:

倉田 宗章・山崎 徳也・倉西 茂・米沢 博  
 酒井 忠明・大地 羊三・能町 純雄・吉村 虎蔵  
 星 治雄・菊地 洋一・大村 裕・山本 俊二  
 島田 静雄・小松 定夫・山田 善一・平井 敦  
 伊藤 学・久保慶三郎・後藤 尚男・前田 幸雄  
 田島 二郎

### 第II部門

#### 司会者:

春日屋伸昌・金丸 昭治・栗津 清蔵・田中 茂  
 毛利 嘉之・松梨順三郎・日向野良世・今井 猛  
 永井莊七郎・榎木 亨・小川 元・土屋 昭彦  
 川島 普・杉木 昭典・丹保 憲二・内藤 幸徳  
 遠藤 郁夫・青木 康夫・岡島 信夫



一般報告者:

石原 安雄・角屋 睦・高橋 裕・林 泰造  
 嶋 祐之・吉川 秀夫・岸 力・樺 東一郎  
 足立 昭平・岩佐 義朗・芦田 和男・山岡 勲  
 井島 武士・堀川 清司・室田 明・尾崎 晃  
 岩垣 雄一・細井 正延・岩井 重久・徳平 淳  
 高松武一郎・合田 健・松本順一郎・庄司 光  
 日野 幹雄・岩崎 敏夫

第III部門

司会者:

川上 浩・松尾 稔・箭内 寛治・門田 博知  
 小石川譲治・最上 幸雄・大平 至徳・川崎 浩司  
 藤本 広・山村 和也・清水 英治・梶原 光久  
 俵 茂・大原 資生・畠山 直隆・湯浅 欽史  
 林 公重・内田 哲郎

一般報告者:

最上 武雄・柴田 徹・山口 柏樹・網干 寿夫  
 赤井 浩一・後藤 正司・植下 協・岡本 舜三  
 竹中準之介・北郷 繁・森 麟・久保田敬一  
 久野 悟郎・山内 豊聡・浅川 美利・三瀬 貞  
 三木五三郎・伊藤 富雄・市原 松平・村山 朔郎  
 西田 義親・谷本 喜一・藤田 圭一

第IV部門

司会者:

山崎 寛司・村田 二郎・小柳 治・藤田 嘉夫  
 渡辺 明・船越 稔・尾坂 芳夫・高橋 毅  
 藪本 健作・吉川 和広・鈴木 忠義・赤塚 雄三  
 塚山 隆一・小林 正凡・高田 弘・川上 賢司  
 新谷 洋二・五十嵐日出夫・加藤 晃・安山 信雄  
 山田 照一

一般報告者:

国分 正胤・加賀美一二三・岡田 清・神山 一  
 水野 俊一・猪股 俊司・樋口 芳朗・丸安 隆和  
 山田 順治・菅原 照雄・渡辺 隆・長尾 義三  
 米谷 栄二・星埜 和・小川 博三・渡辺 新三  
 佐佐木 綱・内田 一郎・八十島義之助・小野一良

聴講者調べ

		5月28日(日)		
		午後	午前	午後
第I部門	25号教室	150	150	100
	27号教室	140	140	140
	28号教室	140	130	80
第II部門	9号教室	150	100	80
	8号教室	170	120	160
	26号教室	140	90	80
第III部門	化学講義室	150	140	90
	物理講義室	120	120	90
	地学講義室	130	120	80
第IV部門	1号教室	80	70	90
	7号教室	200	180	150
	22号教室	130	100	110

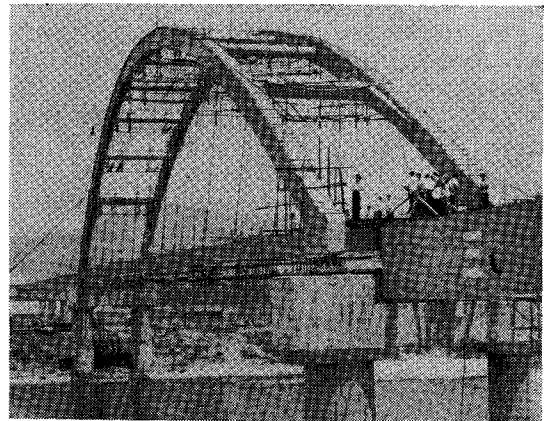
見学会

(5月29日~30日)

Aコース(広島市周辺・宮島コース)

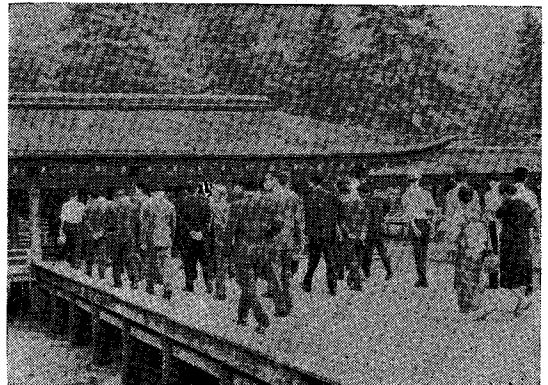
広島県庁前に集合したAコース参加者66名は2台のバスに分乗、9時15分に県庁前を出発し見学の予定コースに入る。回想すれば終戦も間近の昭和20年8月6日午前8時15分、人類史上最初の原爆が広島に投下され、一瞬のうちに二十数万人が殺傷されたあの当時の悲惨な光景をバスガイド嬢の説明をききながら想像し、修理中の原爆ドームなどをバスの中から眺めているうちに9時25分原爆資料館に着く。そこでは被爆当時の詳細な様子や焼けただれた軍服などがそのまま保存されており、改めてその恐ろしさを痛感したのであるが、見学予定時間を20分も過ぎたので9時50分資料館を後にし、桜の名所として古くから

安芸大橋を見学中の一行



親しまれ、そして展望台からは広島市街を眼下に眺めることができる比治山公園に10時10分到着、それぞれ記念撮影などして10時25分つぎのコースに向う。バスは国道2号線に出て新広島国道区間を走り黄金橋などを渡りながら、やがて国道から離れ11時10分安芸大橋工事現場に着く。同橋はわが国最初の斜め吊材をもつアーチ橋で担当の広島県の方から説明をきいて工事中の橋桁の上を渡り、下をみて人によっては胸をどきどきさせながら約10分余り見学する。そしてバスに乗り込み11時30分大

宮島にて



芝水門（旧太田川）および裾園水門（太田川）のある太田川放水路分派点に到着。建設省太田川工事事務所の方から説明をきき、付近をそれぞれ見学して11時45分にそこを出発する。そして12時頃郊外の茶屋に到着、ここで中食をとるが、帰りの汽車時間の関係で急ぐ必要があるとかで20分足らずで終える。

午後のコースは12時20分その茶屋を後にして宮島に向う。途中バスガイド嬢のユーモアを混じえた説明などをきき、瀬戸内海の美しい風景を左にみながらバスに揺られること約40分、13時宮島口に到着、しばらくして後、船に乗り込み13時35分宮島に渡る。そこで同じくガイド嬢の説明をきき皆で記念撮影をして厳島神社に入る。今から約800年前に平清盛が今日の規模に改築したそうであるが、場所や地形などよく考えて合理的に作ったものだなあと感心しながら1時間位を島で過ごし、それぞれ再び船で対岸に渡る。帰りのバスが待っている宮島口では汽車時間の関係で若干早く帰る方と予定どおりの一行の2班にわかれ、前者は15時5分すぎ、後者は15時35分それぞれ広島城に向って広島に帰るコースを走る。そして遅い方の一行は16時20分広島城に着き、そこで各自それぞれ与えられた20分間を過ぎて16時40分広島城を後にし、16時50分頃広島駅に到着、有意義な1日を解散した。最後に中国四国支部の関係者各位ならびに見学会に便宜を与えて下さった各位に紙上より厚く御礼申し上げる次第です。

（金沢大学 高瀬信忠・記）

## B コース（出雲路コース）

5月29日午前9時、Bコース見学旅行参加者一行52名は広島県庁前を第1日目の目的地出雲に向って出発した。よく晴れて初夏とはいうものの荷物をさげて歩くとじっとり汗ばんてくる。昨日までの学術講演も無事にすんで一応ほっとしたような表情が誰彼の顔にうかがわれる。バスには建設省中国地建の仏

出雲大社にて



中海干拓事務所にて説明を聞く



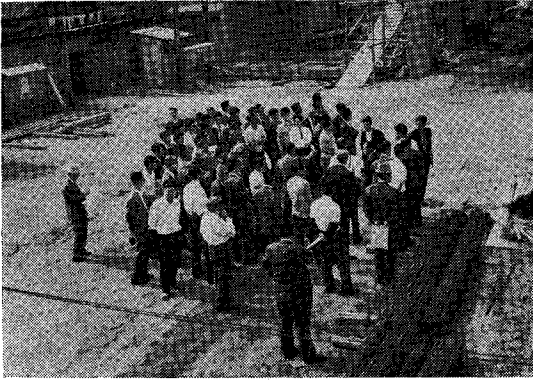
菅沢ダム工事現場



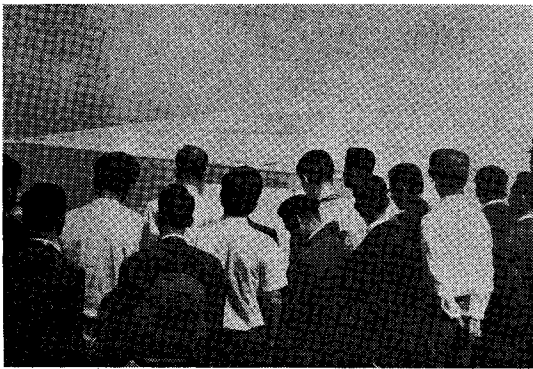
石、村木両氏が案内役として同乗され、車は広島市内を通過して国道54号線に入るところから太田川放水路、国道54号線の改良工事の状況などに関して説明される。バスのガイド嬢がその合間に付近の風物などに関する相の手を入れ、車内はなごやかな雰囲気に入れ、快晴の中国路を次第に中国山脈の中央へと向って進んでゆく。10時55分頃三次市を通過、この頃から江川の上流に沿って進み、河川工事について説明された。11時50分赤名着、ここで昼食で30分ほど休憩する。ここから松江工事事務所の吉川、田中両氏がバトンタッチ。車は54号線を島根県側に入る。同じ54号線でも先刻までの広島側とは多少様子が違うようだ。この路線における唯一の有料道路である青雲トンネル（標高500m、延長1020m）を含む改良工事について説明があった。そのあとは田中氏のユーモラスな土地の事情の説明にしばらく時の経過を忘れる。午後2時10分宍道で国道9号線に出て、ようやく振動から解放された。2時45分出雲大社着。ここでバスを降りて松並木の参道を歩み、拝殿の前に参拝、ガイド嬢の説明を聴く。目下シーズン中かどうかわからないが境内にはちらほらと若いカップルの姿が見受けられた。それから再びバスで日御崎燈台に行く。快晴に恵まれまことに申し分のない観光旅行である。少々くたびれてきた頃、再びバスに乗車玉造温泉に向う。午後6時過ぎ温泉着。夕食は広間で懇親会。会員の中からいくつかの余興も出て、なごやかな一時を過ぎた。本日の行程はほとんどが観光的なものであった。

翌5月30日、本日もまた申し分のない快晴。8時に温泉を出発、国道9号線を宍道湖および松江市を左手に見ながら快走し、8時40分頃、農林省の中海干拓事務所に着く。所長の辻氏から、中海干拓事業の概要説明をいただいた後、事務所構内に作られた水理実験のための模型を見学する。宍道湖、中海および弓浜半島の外海も含む、非常に大規模な模型で、製作に1000万円以上を要したとのこと。本格的な実験はまだこれからとのことであった。あとの時間の都合で9時20分、ここをあとにし、つぎの見学場所である菅沢ダムに向う。このダムは日野川水系伊賀川を堰とめる高さ73.5mの重力式ダム。国道9号線ははずれてからは狭い砂利道の砂ほりに悩まされ、10時10分頃ようやくダムの現場に到着した。ここで菅沢ダム工事事務所の加藤工務課長から概要説明があった。2日間にわたるBコース見学日程の中で、今日の午前のみ2カ所だけが土木工事に関係のある見学であった。ここで昼食後、最後に残った目的地大山に向う。2時20分槻水原展望台に到着。30分くらいしか時間の余裕が無かったが、それでもリフトに乗って一番上の展望台に上ったり、写真を撮ったり、この見学旅行の終りの一刻を楽しんだ。ただ、晴天にもかかわらず霞が立こめたような感じで遠望がきかなかったのは惜しかった。3時にここを出発、坦々たる

人工土地見学



埋立現場 (高松)



観光道路を下って午後4時米子駅前に到着した。いろいろの都合で今日の途中から帰られた方、また大山登山に出かけられた方もあったが、大部分はここで互いに名残りを惜しみつつ散会した。  
(北海道大学 尾崎 晃・記)

C コース (四国路コース)

参加者は66名、天気はよし、2台のバスの席もわりにゆったりし、豊富なスケジュールとあいまって、見学旅行は快適そのものであった。

5月29日(月)8:50 広島県庁前を出発、市内の目抜き通りを走り、ほぼ完成の国道2号線のバイパスを地建の説明をうけつつ通過、広島をあとに酒どころ西条、三原を過ぎ正午第1の見学地、備後工業整備特別地域の中核 日本鋼管 福山製鉄所に着く。ここで昼食後、バスで工場内を順次説明をうけつつ見学。ついで岡山県に入り、岡山県 南新産業都市の中核 川崎製鉄水島

製鉄所に着く。ここでは土建部長から 将来計画、土建関係工事などの説明をうけ、バスで工場内を見学した。両工場とも、世界的規模を誇る最新鋭設備で、目をうばわれるものばかりであった。日本鋼管1000トン級の船をすばりおさめる荷役のドームあるいは川崎製鉄の5kmにわたるコルゲートセル護岸などが印象に残った。また両工場とも埋立敷地の地盤が悪く、基礎工にはかなり苦勞をしていた。なお公害対策には十分の注意がはらわれているようにみうけられた。

16:10 水島をフェリーで出発、丸亀に向う。いよいよ瀬戸内海横断だ。潮風に吹かれながらみる 除虫菊でおわれた島々の眺めは全く素晴らしい。フェリー内で 岡山県土木部長から 瀬戸大橋について説明があり、この航路がそのルートの一つであるとのことで、もしこのルートがきまれば、あの島とあの島の間にかかってゆくのだといった話に、完成後の美観が想像された。丸亀に上陸、17:30 宿泊地高松市の折鶴旅館に着く。夕食の宴会では一同、大いに四国一夜を満喫した。

翌30日は8:00 出発、まず坂出市の人工土地および住宅建設工事の見学。高さ5~9m、面積約1万m<sup>2</sup>の鉄筋コンクリート人工地盤に1尺程度の土を盛り、上にアパート、樹木、下に駐車場、商店街、市民会館などをつくり、急速な都市発展により残された市中央部のスラム化しつつある住宅環境を一挙に解決せんとしたもので、人口の都市集中の解決策として今後の一つの方向をみる思いかした。つぎに番の州工業用地造成工事を常盤公園展望台から眼下に見おろしながら、坂出土木出張所長からの説明に一同耳をかたおける。ここは地盤がよく、また埋立土も航路しゆんせつの良い砂質土であり、その土捨場として急速に造成されてゆく状況が望見され、地理的優位な条件とも考えあわせて今後の発展が目に見えるようであった。さて10:00 いよいよ国道32号線に沿い、四国横断にかかる。途中大歩危に下車、一同岩の上、岸边思い思いに陣どり溪流の景観美の中で屋食に舌鼓をうつ。ついで 国鉄大歩危工事区長より土讃線常襲地すべり地帯の事故防止対策として、大歩危・土佐岩原間線路変更の約4kmにわたるトンネル工事について地番説明をうけた。さて次第に高知に近づく。途中から乗った高知ガイドクラブのガイドさんの軽妙な説明、はたまた美声の歌に一同聞きほれながら、14:50 南国高知に着く。長時間の旅も一瞬にすぎた感。例の「はりまや橋」を過ぎ、桂浜に下車、白砂の海辺からの果しなく広がる太平洋の眺め、海援隊長坂本竜馬の銅像などなど一同しばし旅情をなくさめる。かくして16:30 高知駅前で解散、Cコースの見学旅行を無事終了した。

最後にこのような有意義かつ豪華な見学旅行を立案計画され、さらに非常な御援助を頂いた中国四国学会支部の皆様および県、市、国鉄それぞれ関係会社の各位に厚く御礼申し上げる。  
(九州大学 上田年比古・記)

広島銀行で記者会見行なわる

第53回通常総会開催に先きだち、5月26日午後1時から2時まで 広島銀行本店会議室において 新旧両会長の記者会見が行なわれた。今年の記者会見には篠原、富樫(新)両会長のほかに小林大会実行委員長、羽田専務理事、松崎中国四国支部長、網干広島大学教授も立ちあい、本州四国連絡問題をはじめ多くの質問が出27日の朝刊に大きく報道された。なお、記者会見に臨んだ報道機関はつぎのとおりである。

中国新聞・朝日新聞・産経新聞・共同通信・時事新聞・山陽新聞・NHK・HTV・RCC・読売新聞・建設工業新聞・建

設通信・中国建設新聞・中国建設情報・建設工業通信

記者会見会場

